

フオッサマグナが提供する 新規事業の機会

日本を二分するフオッサマグナ

南北に細長い本州の中央にフオッサマグナといわれる地域がある。太平洋側の静岡県中部から日本海側の新潟県中部にかけての帯であるが、日本列島がいくつかのプレートの衝突によって誕生したとき、北米プレートとユーラシアプレートの衝突した境界とされている。かつて

一帯が海底であった証拠である化石が発掘され、長野県長谷村を代表として各地にゼロ磁場の地点が発見されるなど、地質学的に興味のある地域である。

それ以外に、生物学上も貴重な現象が集中している。ゲンジボタルの発光する周期がフオッサマグナを境界に西側では二秒、東側では四秒という有名な事例もあるし、フジアザ

ている植物や、フオッサマグナ以西にしか棲息していないオオシモフリスズメなどの昆虫も確認されている。

フオッサマグナが創造した固有文化

このようにフオッサマグナが地質学上や生物学上の境界になっていることは理解できるが、文化についても境界である事例が多数存在する。日本を代表する麺類として饅飩と蕎麦がある。それらを提供する饅飩店は全国に約二万八千店、蕎麦店もほぼ同数で両者は拮抗している。都道府県単位で蕎麦店が多数の地域と饅飩店が多数の地域に色分けしてみると、見事にフオッサマグナを境界にして東側が蕎麦圏、西側が饅飩圏になる。

ウナギの調理方法には背開きと腹開きがあるが、フオッサマグナ以西は腹開き、以東は背開きである。面倒な背開きが東側で主流なのは、武家社会である関東一円では、腹開きは切腹を連想させるとして忌避されてきた結果とされる。日本の正月に必須の食材の餅については、丸餅と

角餅が存在するが、これも西側では丸餅、東側では角餅で、その境界は愛知から岐阜にかけてである。

ところが、角餅圏内の山形庄内地方は離島のように丸餅が主流であり、丸餅圏内の四国土佐地方では角餅が流通している。不可思議な現象であるが理由が存在する。庄内地方の酒田は北前船が寄港する日本海側の重要な港湾都市であったため、大阪や京都の文化が浸透してきた影響であり、土佐の角餅は初代土佐藩主山内一豊が尾張から着任したため、その地方の風習が波及した影響とされる。

地域特性に呼応する事業の役割

現在ほどには通信手段が発達していない時代には、文化の伝播は限定された交通手段に影響されていたことを証明する事例である。フオッサマグナの一角は飛驒山脈や木曾山脈など急峻な山地が列島を分断し、海岸でさえ北陸の親不知・子不知や東海の興津・由比の難所があり、さらには江戸時代の徳川幕府の政策に

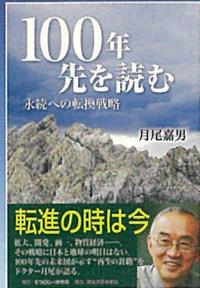
よって一般の通行は大幅に制限されていたため、その影響は生物だけではなく、文化の交流をも制限していたと推察される。

それでは通信手段はもちろん、交通手段も高速道路と高速鉄道が縦横に整備された現在、地域に残存した固有文化の価値は衰退し、意味も喪失しているかというところ、そうではない。味覚三代という言葉があるように、人間の身体に記憶された感覚は簡単にには変化しないものであり、フオッサマグナが誕生させた固有の文化もまだまだ日本の各地に存続維持されていくはずである。

単一商品を大量生産し大量流通させることが主流である現代社会の加工食品にも、日本を東西に二分して別々の味付けで供給しているものが増加し、人気である。日本の国土が創造し、地域に記録された特性を反映した商品を提供することは、食品のみではなく新規の事業の機会となるはずであるし、地域主権が要請されている未来の日本を創造する活動としても期待されるものである。



東京大学名誉教授
つぎおよしお
月尾嘉男



絶賛発売中!!
ご注文は添付のハガキで